

地域の わ 通信

Kanagawa-ku
Chiiki ryoku

神奈川県内の庁舎内向けに、区内の地域情報や地域支援に関わる業務などをご紹介します。

区政推進課 地域力推進担当 411-7026

Case 3

団体名：西神大寺団地自治会

地域サロン【くつろぎの広場】

ちよっと息抜きができる場。多世代交流ができる場。



■西神大寺団地自治会ではサロン「くつろぎの広場」を平成 28 年 10 月から開催している。月 1 回、第 2 木曜日、10 時～12 時まで、お茶やお菓子を食べながら気楽におしゃべりをし、季節に合った催し物を楽しむ地域交流の場として、毎回 10～15 人ほどが参加している。

■企画したのは、区民活動支援センターの相談員として勤務する傍らで、2 年前から西神大寺団地の自治会会長を引き受けた黄淳子（こう じゅんこ）さん。

黄さんは、10 年以上に渡り、主任児童委員をはじめ自治会役員などに熱心に取り組み、地域の核になっている女性だ。

■この団地は築 34 年、242 世帯が住む中規模団地で、引きこもりがちな高齢者の増加、世代間の交流の減少、防犯の問題など、団地内の人間関係が希薄になったことによる課題がある。さらに、売り買いで家主が変わることで、住民の関係性が

一層薄れてきていた。

■事件も起こった。空き巣被害だ。これをきっかけに昼間もひっそりしている団地内の防犯が一層気になった黄さんは、日中あまり活用されていない団地の集会所を使って、防犯や困った時に声が出せる関係づくりの場ができないかと考えるようになった。

■ちょうどその頃、第 1 期「神奈川県地域づくり大学校」を受講する機会を得た。「地域づくり大学校」の中で、自分が地域でやってみたい活動計画を制作する「夢プラン」で、団地内で開催するサロンを描いた。

■いざ実現するにあたっては、一人では難しく、地域の中で活動するには、まず自治会の協力が必要だった。当時の会長に相談し、長年の地域活動の仲間である民生委員にも声をかけ、サロンの開設に向けて一緒に考えた。



くつろぎ広場 平成29年7月13日(木) 西神大寺団地 集会所

■運営する上で意識したことは、「来た人をお客さんにしないこと。出番や役割があると参加者も地域の一人である意識が芽生えると思っています。」と黄さん。また「はじめから決まったプログラムは作らず、ゆるくやっています。張り切りすぎると続かないから・・・。」とも言う。

■「毎回、子育て中の方から一人暮らしの高齢者などの団地住民が訪れてくれます。開催がわかりやすいように、昨年、目立つピンク色でのぼりを作りました。最近では、参加者が自主的にお茶菓子の配膳をすることが多くなりました。さらに、継続して学べるサークルを作りたいという人も現れています。」と黄さんは喜ぶ。

■今のところは、参加者が女性ばかりで男性が入りづらいようだが、「このサロンを見て、男性も入会できる「シニアクラブ」を作りたいという声が聞こえてくるようになりました。」と黄さん。地域に集う場ができたことが、住民の刺激になっているようだ。

■「地域づくり大学校」でお世話になったまちづくりコーディネーターによると、地域活動のポイントは【小さな活動をたくさん実施する。町の特徴を知り、生かす。人の出番や役割を作る。】と言う。まさしく「くつろぎ広場」は、小さな活動を定期的を実施し、住民の出番や役割のあるサロンになりつつあるようだ。

- ① ピンクののぼりが出ている時は「くつろぎ広場」の日
- ② 「そこはどうやって折るの？」七夕用飾りを折り紙で作る
- ③ 引っ越してきたばかりの子育て中の親子も参加してみんなでパチリ